
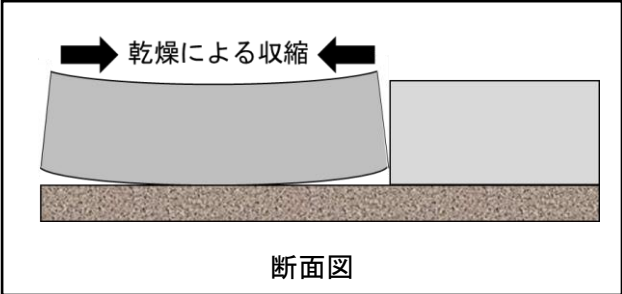
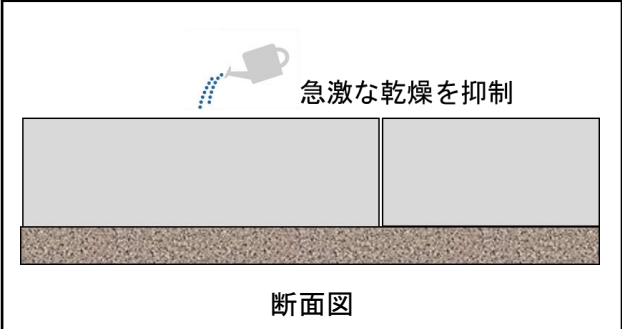
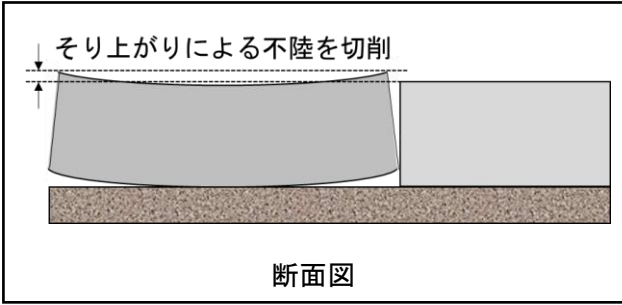


| | |
|--|---|
| 発生箇所 | ②横目地 |
| 分類 | 材料・施工 |
| 参考箇所 | 4-8-8 養生 |
| <p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建屋内の目地金物がないコンクリート舗装版において、湿潤養生を一ヶ月以上行い水和反応により十分な強度は発現していると思われるが、養生終了後に目地部の端部にそりが生じた。 |  |
| <p>●原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養生終了後にコンクリート表面側の水分が乾燥蒸発したことでコンクリート版表面が収縮し、コンクリート版にそりが生じた。 |  <p style="text-align: center;">断面図</p> |
| <p>●発生防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿潤養生終了時には急速な養生マットの撤去はせず、適度に散水等を行いながら時間をかけて乾燥させる。 ・コンクリート版端部は、特に乾燥しやすいので注意する。 ・設計段階で目地の構造を見直すことも有効である。 |  <p style="text-align: center;">断面図</p> |
| <p>●発生した場合の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切削厚に配慮して、応力を考慮した設計照査をした後に、研削機などによって凸部分を切削する。 ・研削機などによって凸部分を切削する場合は、版厚減少による応力増加に配慮する。 ・そり上がりによって路盤とのすき間が生じ、バタつく場合は注入工法（アンダーシーリング）による空隙充填を行う。 |  <p style="text-align: center;">断面図</p> |